

週間展望・回顧(豪ドル、南ア・ランド)

July 23, 2021

## 豪ドル、CPI とコロナ感染状況に注目

- ◆豪ドル、4-6 月期 CPI の結果に注目
- ◆豪ドル、ゼロコロナを目指す豪州にデルタ株拡大が重しに
- ◆ZAR、干ばつ、ウイルス拡大、治安の乱れなど問題山積みで上値が重い

### 予想レンジ

豪ドル円 78.00-83.00 円

南ア・ランド円 7.30-7.70 円

### 7 月 26 日週の展望

豪ドルは上値が重い。今週発表された豪準備銀行 (RBA) の議事要旨では、「労働市場は予想を上回る回復が続いた」としたものの、「利上げの条件は 2024 年まで満たされない」とした。上限が満たされない理由としては、インフレが持続的に目標範囲内に収まらないということが要因になっている。RBA は 2-3% がインフレ目標としているが、この数年間で 2% を上回ったのは、昨年の 1-3 月期に一度 2.2% となったのを除くと、2018 年の 4-6 月期まで遡ることになる。このような状況下で、来週は 4-6 月期の消費者物価指数 (CPI) が発表される。ここ最近では市場参加者がハト派になり、一部では「RBA は量的緩和 (QE) を縮小するのではなく、拡大する可能性がある」との予想も出始めた。市場予想を下回った場合の豪ドル売りの反応が大きくなりそうだ。

隣国である NZ の中央銀行 (RBNZ) が、一部では今年 3 回利上げをするとの予想があることを考えると、豪ドルは対 NZ ドルで特に上値が重くなりそうだ。CPI 以外には 30 日に 4-6 月期の生産者物価指数 (PPI) も発表される。また、デベル RBA 副総裁が 27 日に講演を行う。

豪州の新型コロナウイルス・デルタ株の感染状況にも引き続き注目が集まる。豪州は「with コロナ」ではなく、「ゼロコロナ」を目指していることもあり、感染が拡大した場合の規制が他国に比べて非常に厳しい。また、ワクチン普及率が低いことから、デルタ株の感染が収まらない場合には豪ドルへの影響も大きくなる。

南アフリカ・ランド (ZAR) は上値が限られるか。6 月 CPI は南ア準備銀行 (SARB) の目標とする 3-6% の中心値を 2 カ月連続で上回る結果となった。しかしながら、翌日の SARB 金融政策委員会 (MPC) では全会一致で政策金利を据え置いただけでなく、インフレ抑制にも自信を示した。当面は現行水準の政策金利が継続される可能性が高まったことから、ランドの買い要因がひとつ減ったと言えよう。また、それ以外にも干ばつ、ウイルス感染拡大、電力不安など多くの問題を抱えている。南アのポジティブ要素が少ない。大手投資会社が南アをはじめとする新興国への投資比率を見直している最中、暴動の激化など治安不安が露呈した。目先、南アからの資金流出の勢いが止まらない可能性もある。今後の国内情勢に注意したい。なお、来週は 6 月の PPI と貿易収支が発表される。

### 7 月 19 日週の回顧

豪ドルは軟調だった。週末に石油輸出国機構 (OPEC) プラスで減産縮小が決定しコモディティ価格が下落したことをきっかけに、リスクオフの流れが売りにつながった。また、6 月の小売売上高が前月比で -1.8% と市場予想を大幅に下回ったことも重しとなった。ZAR も上値が重かった。先週の暴動はいったん落ち着いたが、暴動によるインフラ崩壊などがネガティブな要素になった。また、コモディティ価格の弱含みも売りを促した。注目された 6 月 CPI は前年比で市場予想を小幅に上回ったものの、SARB が全会一致で政策金利を据え置いたことも上値を抑えた。(了)